

# レトリカル批評を用いて検討する「愛は勝つ」の歌詞の多義性 —「どんなときも。」の歌詞との比較を通して—

高橋 智子<sup>†</sup>

## The Polysemy of the Lyrics of the Song “Ai wa Katsu” explored through Rhetorical Criticism: A Comparison with the Lyrics of the Song “Donnatokimo.”

Tomoko Takahashi

### 1. はじめに

#### 1.1 研究の動機

1990年に発表されたシンガーソングライターKANの「愛は勝つ」の歌詞は、KANが友人に対して叶わない恋を諦めるよう勧める意で作ったものである [1]。だがメディアではウェディングソングとして紹介されることがあり [2]、その場合では「どんなに難しい状況の恋愛でも諦めなければ必ず最後にその相手への想いが成就する」という意で捉えられていると思われる。その一方、未曾有の自然災害 [3] [4] や感染症の蔓延 [5] によって苦しむ人々を励ますための曲として使われることもある。

この楽曲は、様々な場面かつ様々な意味で歌詞を捉えることができる（これを本稿では「多義性」と呼ぶことにする）。その理由を検討したいと思った。そこで、人によって生み出された行為や表現物を、受け取る側がどのように解釈するかを分析する「レトリカル批評」という研究手法を用いて筆者の疑問を解き明かそうと考えた。

#### 1.2 レトリカル批評とは何か

レトリカル批評における「レトリック」の意味は、Foss (2009) [6] の定義によると「コミュニケーションを為すためのシンボルを介した人間の営み」である (p. 3より筆者翻訳)。以下、このFoss (2009) に基づいて説明すると、この中の「シンボル」とは、ある対象（行為や物体など）が、何かしらの関係性や関連性、または慣習によって他の何かを意味する、もしくは表すものである。例えば、森の中で立っている一本の樹木、これ自体はシンボルではない。だがこの樹木が、環境保護活動のために使われる場合には森林破壊のシンボルに、クリスマスツリーとして使われる場合にはキリスト生誕のシンボルになり得る。ある

対象を何のシンボルとして見なすかについては、作り手の意図と関係なく受け取る側に委ねられるため、私たちはそれぞれ自身の見解によってそれを検討し、導き出していく。

この一連の流れについて、体系的な調査と説明するために設計された質的な研究方法がレトリカル批評 (rhetorical criticism) である。レトリカル批評では主に、演説の原稿、建築物、彫刻品、レコーディングされた歌などの有形のアーティファクト（表現物）を対象とする。筆者の研究目的は「愛は勝つ」の歌詞に多義性が生じるプロセスを検討することであり、そのためにはレトリカル批評が有効とみなしてFoss (2009) をもとに研究を始め、2021年に修士論文を執筆した。本稿はその内容を再構成し、新たな知見を加えた上でまとめたものである。

#### 1.3 比較対象として選んだ楽曲

当研究では「愛は勝つ」の歌詞の比較対象として、似た傾向にある楽曲の歌詞を併せて分析する必要があると考えた。そこで榎原敬之「どんなときも。」(1991) の歌詞を併せて分析することにした。

両楽曲はどちらも1991年のヒット曲であり、同年のオリコン年間CDシングル売上ランキングにおいて、「愛は勝つ」は第3位、「どんなときも。」は第4位である。また「どんなときも。」も「愛は勝つ」と同じように傷つき悩む人々を元気づける歌としてメディアなどで取り上げられることがある。例えば2011年に全国カラオケ事業者協会が募集した「東日本大震災の被災地へ応援歌として届けた楽曲」の応募総数1321点の中で特に多かった30曲の中に両楽曲が含まれている [7]。また「年代流行」というサイト内での「定番の応援ソング」を売上枚数のランキングで表した「応援ソングランキング」にて「どんなときも。」は第6位、「愛は勝つ」は第1位である [8]。それらの理由

<sup>†</sup>2021年度修了（人文学プログラム）

により「どんなきも。」が歌詞の比較対象として適していると考えた。

#### 1.4 主な先行研究

「愛は勝つ」と「どんなきも。」の歌詞に関する先行研究には茅根（2002）[9]がある。茅根は石油危機の翌年である1974年と、バブル景気が消えて不況になった1991年の、日米それぞれの年間ヒットチャート10位以内の楽曲である全40曲を研究対象として、歌詞の意味から浮かび上がる当時の社会状況を見出そうとした。研究方法としては一曲ごとに、歌詞内の単語を品詞別に分けて計数化することでどのような単語が多用されているか検討し、また文の構成や歌詞の内容から各国のそれぞれの年のヒット曲における傾向について考察している。その中で1991年に日本でヒットした10曲のうち「愛は勝つ」を含む9曲を恋愛に関する歌詞だとし、唯一「どんなきも。」のみが自分の過去や未来を見つめる歌詞だとみなしている。

また「どんなきも。」の作者である槇原敬之の楽曲全体についての研究として金城（2013）[10]がある。金城は、デビューした1990年から2012年までに発売された槇原の17枚のオリジナルアルバムの歌詞の語彙について、統計ソフト「KH Coder」を用いて全数調査を行い、どのような語彙がどの程度用いられているのか数量的な側面を明らかにした。その後、同じく統計ソフトの「多変量解析 Ver 2.0アカデミック版」を用いた主成分分析と階層的クラスタ分析により、各アルバムの関連性を見出そうとした。

この研究で金城は、1999年までのアルバムに収録されている歌詞は恋愛に関連する語句が多く見られ、2000年以降では自分の人生を見つめ生きていくことに関連する語句が目立つと述べている。だが「どんなきも。」は1991年に発売された楽曲であり、茅根（2002）の結果と照らし合わせると、金城（2013）で述べられた1999年までの槇原の楽曲における歌詞の全体的な傾向から外れている可能性がある。

上記の研究において、茅根（2002）では「愛は勝つ」と「どんなきも。」が流行した1991年の日本におけるヒット曲の全体的な傾向が分かり、金城（2013）では「どんなきも。」が発売された時期の槇原の歌詞の全体的な傾向が明らかになった。だが、筆者の疑問である両楽曲の「歌詞の多義性」を検討するには、独自に各楽曲の歌詞の意味を深く掘り下げて検討していく必要があると考えた。

また茅根（2002）と金城（2013）は両者とも量的な研究である。当研究では質的研究の手法の一つであるレトリカル批評を用いて歌詞の分析をしていくという点で、両楽曲の歌詞に関して新たな発見を得る可能性があると考えた。また過去のヒット曲全般の歌詞に関する研究の中でも、一曲ないし二曲の歌詞を質的研究の手法によって分析しているものは見当たらず、前例が少ないと思われたため、当研究を実践する意義があると考えた。

## 2. 本稿におけるレトリカル批評の実践

### 2.1 研究手法の概要と手順

本稿ではFoss（2009）で紹介されているレトリカル批評の手法の中から「愛は勝つ」と「どんなきも。」の歌詞のレトリカル批評に有効と思われる三種類の手法を用いた。次項以降、手法ごとにFoss（2009）で述べられている概要と、それらを基にした当研究での分析の手順を説明する。

#### 2.1.1 クラスタ批評

あるアーティファクトの中で主要であると思われる事項（キーターム）と、それに関連すると思われる事項（クラスター）を選定し、それらの関係性を検討し、そこからそのアーティファクトについてどのような説明ができるかを考察する手法である。

まずアーティファクトにおけるキータームを「頻度」（作者によって何度も使用される事項）もしくは「強度」（出現回数が少ないがアーティファクトの主題に関わり、重要と思われる事項）によって選び出す。次にそれぞれのキータームに関連すると思われるクラスターを見出す。そうしてクラスターとキータームを洗い出した上で、それらの繋がりパターンを見極め、作者によって構築された世界観を可視化していく。

本稿でも、まず歌詞の中のキータームを「頻度」もしくは「強度」に基づいて選んだ（両楽曲とも歌詞の終盤で前出の歌詞を繰り返すリフレインの部分を除外して考えた）。次にそれぞれのキータームに関連すると思われる言葉をクラスターとして選定し、それらの関係性を検討することで、歌詞の中でどのような説明ができるかを考察した。

#### 2.1.2 メタファー批評

あるアーティファクトの中にある、テナー（表現しようとする事項）とピークル（ある事項を表現するために使われる別の事項）を検討し、そこからそのアーティファクトについてどのような説明ができるかを考察する手法である。

Foss（2009）の原文では「metaphor criticism」と題されているが（p. 267）この中で「metaphor」は一般的にいう暗喩と性質が異なり、ある事項について、それが持つ特定の側面に着目し、それと同一もしくは類似した側面を持つ別の事項（言葉を用いたアーティファクトが研究対象の場合は、それと同一もしくは類似した側面を持つ別の言葉）を使って表現することを指す。

本稿ではまず各歌詞の背景（コンテクスト）を探るため、楽曲が制作された経緯と、そのあと主にどのような場面で使用されてきたかをピックアップした。次に歌詞の中で、ある事項を表現するために使われている言葉（ピークル）と、別の言葉を使って表現しようとする事項（テナー）を探した。そして両楽曲共にピークルのみを見出せたので、それらが各コンテクストによってどのような意味になるかを検討し、テナーとして示す表を作成した。更に、

レトリカル批評を用いて検討する「愛は勝つ」の歌詞の多義性  
—「どんなときも。」の歌詞との比較を通して—

そこから歌詞に関してどのような説明ができるかを考察した。

### 2.1.3 イデオロギー批評

この手法では、まずあるアーティファクトにおいて、そこに含まれているイデオロギーへの手がかりが明示されている要素を探す。次に、その「明示された要素」それぞれが暗示していると思われる考えまたは概念を少なくとも一つ以上挙げ、それらを「暗示された概念」としてリストアップする。そしてその「暗示された概念」のリストから、主要な思想のまとまり・テーマ・アイデアを把握し、それらを包括したカテゴリーを作成する。また、そのカテゴリーの中で「暗示された概念」をいくつかのグループに分け、その結果からイデオロギーを組み立てる。更に、そのイデオロギーが誰にとっての利益を表すのか（どのような人にとって望ましいものなのか）を見出すことにより、そのアーティファクトについてどのような説明ができるかを考察するものである。ここでいう「イデオロギー」とは、いわゆる政治的な思想というよりも、ある社会の中で生活する個人が何かを決定する際に基とする信念体系を指す。

本稿では一つの歌詞を、イデオロギーへの手がかりが「明示された要素」とみなし、両楽曲の歌詞を共通の条件下で一文ずつ区切った。その後、その一文ごとに暗示されていると思われる考えまたは概念を「暗示された概念」としてリストアップした。そしてそれらのリストから読み取れる主要な思想のまとまり・テーマ・アイデアを検討し、それを包括したカテゴリーを作成した。更にそのカテゴリーの中でグループ分けをし、その結果から歌詞におけるイデオロギーを組み立てた上で、そのイデオロギーが誰にとっての利益を表すのかを考察した。

次項以降、それぞれの歌詞において、三種類の手法を用いた分析の過程と結果について、楽曲ごとに述べていく。

## 2.2 「愛は勝つ」の分析の実践

### 2.2.1 クラスタ批評

まず歌詞の中でのキータームを三つ選出した（図1にて四角で囲った語）。「頻度」に基づくものは「愛」（出現回数4回）と「信じること」（出現回数2回）、「強度」に基づくものは、出現回数1回だが歌詞の中で唯一、主人公が呼びかける相手と自分に共通する経験について語る部分で話題の中核を為している「流星」を選んだ。

次に、三つのキータームと関連性があると思われる言葉をクラスタとして選出した（図1でキータームを囲った色および線種と同じ下線で表した語）。なお、終盤で前出の歌詞を繰り返す部分は除外して考えるため、19～21行目のリフレインの部分はカッコ内に入れている。

こうしてそれぞれのキータームとクラスタの関係を検討し、見出したことをキータームごと以下に記す。なお、各キータームとクラスタに当たる言葉は図1で使用した色および線種で囲う、もしくは下線を引いている。

1 心配ないからね 君の想いが	11 どんなに困難でくじけそうでも
2 誰かにとどく明日がきっとある	12 <u>信じること</u> さ 必ず最後に <u>愛は勝つ</u>
3 どんなに困難でくじけそうでも	13 Carry on, carry out
4 <u>信じること</u> を決して <u>やめないで</u>	14 求めてうばわれて与えてうらぎられ
5 Carry on, carry out	<u>愛</u> は育つもの
6 傷つけ傷ついて <u>愛する切なさ</u> に	15 Oh, 遠ければ遠いほど
すこしつかれても	16 <u>勝ちとるよろこび</u> はきっと大きいだろう
7 Oh, もう一度 夢見よう	17 心配ないからね 君の勇気が
8 <u>愛されるよろこび</u> を知っているのなら	18 誰かにとどく 明日はきっとある
9 夜空に <u>流星</u> を見つけるたびに	19 (どんなに困難でくじけそうでも
10 <u>願い</u> をたくしぼくらはやってきた	20 信じることさ 必ず最後に愛は勝つ
	21 信じることさ 必ず最後に愛は勝つ)

図1 「愛は勝つ」歌詞（クラスタ批評）

#### ○キーターム「愛」

「愛する」ことは「切なさ」に繋がるが、「愛される」ことは「よろこび」でもある。このことから、KANは「愛」というものに対してプラスとマイナス両方の側面があると示していることが分かる。

また「愛」は（「求めてうばわれて与えてうらぎられ」という）様々な葛藤を経て「育つ」ものであり、その最終地点が「勝つ」「勝ちとる」であり、そこへたどり着くことで得られるものは「よろこび」だと語られている。

#### ○キーターム「信じること」

「愛される」「よろこび」を得るためには、どんなに「困難」で「くじけそう」でも「信じること」を「やめないで」と語られている。つまり「愛」が持つマイナス面はその過程で乗り越えるべきものだとして描かれている。そして、そのマイナス面＝「困難」で「くじけそう」になっても、最終的に「勝つ」ためには「信じること」が大事だから「やめないで」と強調されている。

#### ○キーターム「流星」

「困難」で「くじけそう」な状況の例えと思われる「夜空」には、主人公たちが「流星」を見つけるたびに「願い」を託してきたとも語られている。このことから、KANが歌詞の聴き手に「願い」を託することができるのが、いつ現れていつ消えるか分からないはかなげな「流星」でしかなくても、状況がぼんやりとしか見えない「夜空」の中を乗り越えてきたという過去を想起させ、聴き手を奮い立たせる内容になっていると思われる。

### 2.2.2 メタファー批評

まず「愛は勝つ」の楽曲が制作された経緯と、そのあと主にどのような場面で使用されてきたかを調べた。楽曲が作られた経緯としては本稿の冒頭で述べた通り、作詞者でもあるKANが片思いに悩む友人を励ますために作られたものである。主に使用されてきた場面としても、同じく冒頭で述べたウェディングソング、自然災害や感染症の蔓延の他、「どんなときも。」の歌詞と共通する点として先述した通り、全般的な応援歌として捉えられたこともある。これらのことから「片思い」「結婚」「自然災害」「感染症の

レトリカル批評を用いて検討する「愛は勝つ」の歌詞の多義性  
—「どんなときも。」の歌詞との比較を通して—

蔓延」「全般的な応援歌」をコンテキストに挙げた。

次に「愛は勝つ」の歌詞の中で、ある事項を表現するために使われている言葉（ピークル）と、別の言葉によって表現しようとする事項（テナー）を探した。その結果、複数のピークルのみ見出すことができたため、それらを図2で赤色の波線によって表した。

1 心配ないからね 君の想いが	11 どんなに困難でくじけそうでも
2 誰かにとどく明日がきっとある	12 信じることさ 必ず最後に愛は勝つ
3 どんなに困難でくじけそうでも	13 Carry on, carry out
4 信じることを決してやめないで	14 求めてうばわれて与えてうらざられ 愛は育つもの
5 Carry on, carry out	15 Oh, 遠ければ遠ほど
6 傷つけ傷ついて愛する切なさに すこしつかれても	16 勝ちとるよるこびはきつと大きいだろう
7 Oh,もう一度 夢見よう	17 心配ないからね 君の勇気が
8 愛されるよるこびを知っているのなら	18 誰かにとどく 明日はきっとある
9 夜空に流星をみつけるたびに	19 どんなに困難でくじけそうでも
10 願いをたくしぼくらはやってきた	20 信じることさ 必ず最後に愛は勝つ
	21 信じることさ 必ず最後に愛は勝つ

図2 「愛は勝つ」歌詞（メタファー批評）

次に「愛は勝つ」の歌詞における各コンテキストとピークルの組み合わせによって、どのようなテナーになり得るのかを検討し表1を作成した（マス内は、各コンテキストにピークルを置いた際に読み取れるテナーを表している）。

表1 「愛は勝つ」メタファー表

	コンテキスト				
	片思い	結婚	自然災害	感染症の蔓延	全般的な応援歌
困難 (3、11、19行目)	片思いの相手との仲が進展しない	結婚生活上の問題	復興が進まない	感染症が蔓延し続ける	目標に到達するめどが立たない
夜空 (9行目)	片思いが進展せず苦しい状況	問題が生じて解決の兆しが見えず苦しい状況	復興する兆しが見えず苦しい状況	蔓延が収束しなくなり苦しい状況	目標に到達するには程遠くて苦しい状況
流星 (9行目)	片思いで苦しんでいる状況を打破する契機	問題解決への契機	復興への糸口 (災害への対策が進むなど)	蔓延の収束への糸口 (ワクチン開発など)	目標を叶える糸口
最後 (12、20、21行目)	片思いの経験を経て幸せを得たとき	結婚を経て幸せを得たとき	被災地が復興したとき	感染症の蔓延が収束したとき	目標が何らかの形で叶って幸せを得たとき
愛 (12、14、20、21行目)	この片思いによって幸せを得られると信じること	この結婚によって幸せを得られると信じること	被災地の復興を信じること	感染症の蔓延収束を信じること	この目標を目指すことによって幸せを得られると信じること
勝つ/勝ちとる (12、16、20、21行目)	片思いにおけるそれまでの苦しみが報われる	結婚生活上の苦しみが報われる	復興の過程での苦しみが報われる	感染症の蔓延する中での苦しみが報われる	目標を目指しているときの苦しみ

表1から見出したことをピークルごとに説明する。

まず「困難」のテナーは、各コンテキストの当事者に現在生じているもしくは未来に生じる可能性のある問題に当たったもの、「夜空」のテナーは問題解決の兆しが見当たらず苦しい状況を挙げた。だが、その状況を打破する糸口に当たる「流星」は、同一コンテキストの中でも様々なものが当てはまると思われ、聴き手によってその内容が異なると考えられる。

また「愛」と「勝つ」のテナーは各コンテキストの当事者が、自身にとっての幸せを得られると信じることによって、それまでの苦しみや報われることとした。だが、コンテキストの当事者にとっての幸せを得られるときを示す「最後」についても、同一コンテキストの中でも具体的な状況が異なると思われ、歌詞の聴き手によってその内容が

異なると考えられる。

### 2.2.3 イデオロギー批評

まず歌詞の全文を一文ごとに区切り（倒置文については、倒置している部分を元の位置に戻して一文とした）、それらを「明示された要素」としてリストを作成した（英語の歌詞には、大修館書店『ジーニアス英和辞典（第三版）』を元に意味に合致すると思われる和訳を併記した）。

次に「明示された要素」のリストから、それぞれが暗示していると思われる考えまたは概念を「暗示された概念」として挙げた（表2）。

表2 「愛は勝つ」歌詞の「明示された要素」と「暗示された概念」

明示された要素	暗示された概念
心配ないからね	励まし
君の想いが 誰かにとどく 明日がきっとある	他者に対する希望ある結果の提示
どんなに困難でくじけそうでも 信じることを決してやめないで	逆境による悲観的な感情を提示した上での励まし
Carry on, carry out (続ける、そして実現する)	希望ある結果の提示
傷つけ傷ついて愛する切なさに すこしつかれても 愛されるよるこびを知っているのなら もう一度 夢見よう	自分の意に合わない他者とのやり取りがもたらす悲観的な感情に対する、楽観的な感情を提示した上での励まし
夜空に流星をみつけるたびに 願いをたくしぼくらはやってきた	逆境を乗り越えようと共に努力してきた過去の想起
どんなに困難でくじけそうでも 信じることさ	逆境による悲観的な感情を提示した上での励まし
必ず最後に愛は勝つ	希望ある結果の提示
求めてうばわれて与えてうらざられ 愛は育つもの	自分の意に合わない他者とのやり取りがもたらす希望ある結果の提示
遠ければ遠いほど 勝ちとるよるこびはきつと大きいだろう	更なる逆境から逆転した場合の希望ある結果の提示
君の勇気が 誰かにとどく 明日はきっとある	他者に対する希望ある結果の提示

こうして作成した「暗示された概念」のリストには「励まし」「希望ある結果の提示」「共に努力してきた過去の想起」という、一般的に好ましい（＝肯定的に捉えられる）と思われる内容と、「逆境」「悲観的な感情」「自分の意に合わない」という、一般的に好ましくない（＝否定的に捉えられる）と思われる内容が混在している。この点から「肯定的or否定的」というカテゴリーを作成した。

そして、その中で「暗示された概念」のリストを一つずつグループ分けした（表3）。一般的に好ましいと思われる内容のものは「肯定的」のグループに入れた。一方、好ましくない内容から好ましい内容へ転じると思われるものについては「否定的→肯定的」のグループに入れた。

そしてその結果から「愛は勝つ」の歌詞におけるイデオロギーを検討したところ、「肯定的or否定的」のカテゴリーの中に、「肯定的」「否定的→肯定的」はあるが「否定的」はなかった。つまり、この歌詞は全て肯定的な内容で終わる形になっていることが分かった。また「否定的→肯定的」のグループに入れた「暗示された概念」の内容から、苦しい状況があったとしても、後に好ましい状況へと変化していくことが読み取れた。そこから「苦しい状況は必ず好転する」というイデオロギーを見出した。

そしてそのイデオロギーは、現時点で逆境の中において、悲観的な気持ちになっている状況の人にとって利益をもたらす内容（望ましいもの）だと考えた。

レトリカル批評を用いて検討する「愛は勝つ」の歌詞の多義性  
—「どんなときも。」の歌詞との比較を通して—

表3 「愛は勝つ」歌詞の「暗示された概念」の分類

暗示された概念	肯定的or否定的
励まし	肯定的
他者に対しての希望ある結果の提示	肯定的
逆境による悲観的な感情を提示した上での励まし	否定的→肯定的
希望ある結果の提示	肯定的
自分の意に合わない他者とのやり取りがもたらす悲観的な感情に対しての、楽観的な感情を提示した上での励まし	否定的→肯定的
逆境を乗り越えようと共に努力してきた過去の想起	否定的→肯定的
逆境による悲観的な感情を提示した上での励まし	否定的→肯定的
希望ある結果の提示	肯定的
自分の意に合わない他者とのやり取りがもたらす希望ある結果の提示	否定的→肯定的
更なる逆境から逆転した場合の希望ある結果の提示	否定的→肯定的
他者に対しての希望ある結果の提示	肯定的

## 2.3 「どんなときも。」の分析の実践

### 2.3.1 クラスタ批評

まず歌詞の中でのキータームを四つ選出した（図3にて四角で囲った語）。「頻度」からは「夢」（出現回数2回）と「気持ち」（出現回数3回）を選んだ。また「強度」からは、どちらも出現回数1回だが、主人公のネガティブな気持ちに関わる言葉の一つである「背中」と、同じく主人公のネガティブな気持ちに関わる言葉であるが、自分自身を正面から捉えられるものを表す「鏡」を選んだ。

次に、キータームと関連性があると思われる言葉をクラスタとして選出した（図3でキータームを囲った色および線種と同じ下線で表した語）。なお、終盤で前出の歌詞を繰り返す部分は除外して考えるため、39～45行目のリフレインの部分はカッコ内に入れている。

こうしてそれぞれのキータームとクラスタの関係を検

討し、そこから見出したことをキータームごと以下に記す。なお、文章内で各キータームとクラスタに当たる言葉は図3で使用した色および線種で囲う、もしくは下線を引いている。

#### ○キーターム「夢」「気持ち」

主人公は学生時代の「夢」を「おきざり」にしているが、現在は「ゆずれない」「夢」があると語っている。そして、その「夢」とは（「好きなものは好き！」と）「言える」「気持ち」を「抱きしめてたい」ことであり、「辛い」「焦る」などのネガティブな「気持ち」は「抱えていても」「笑ってみる」などの行為で「溶かして行こう」と語っている。このことから、槇原が「夢」を、歌詞の主人公における過去と現在の違いを明確に表すツールとして使用していると考えられる。

歌詞の中で、主人公は過去の「夢」についてほぼ言及せず具体的な内容も語っていない。だが、現在の「夢」については、常に（＝どんなときも）どのような「気持ち」でいたいかを語っている。そこから、主人公には過去を振り返ることよりも、現在の自分の「気持ち」を大事にしたいという「夢」があると読み取れる。

#### ○キーターム「背中」「鏡」

主人公は自分の「背中」について、自分が思うより「正直」に見えるか他人に聞かなくては「不安」だと述べている。このことは、主人公が「背中」と表現す

- |  |   |                      |
|--|---|----------------------|
| 1 僕の背中 <sup>□</sup> は自分が                     | 20 もしも他の誰かを                                 | 39 (どんなときも どんなときも    |
| 2 思うより正直 <sup>□</sup> かい？                    | 21 知らずに傷つけても                                | 40 僕が僕らしくあるために       |
| 3 誰かに聞かなきや                                   | 22 絶対ゆずれない                                  | 41 「好きなものは好き！」と      |
| 4 不安になってしまうよ                                 | 23 夢 <sup>□</sup> が僕にはあるよ                   | 42 言える気持ち 抱きしめてたい    |
| 5 旅立つ僕の為に                                    | 24 “昔は良かったね”と                               | 43 どんなときも どんなときも     |
| 6 ちかったあの夢 <sup>□</sup> は                     | 25 いつも口にしなが                                 | 44 迷い探し続ける日々が        |
| 7 古ぼけた教室の                                    | 26 生きて行くのは                                  | 45 答えになること 僕は知ってるから) |
| 8 すみにおきざり <sup>□</sup> のまま                   | 27 本当に嫌だから                                  |                      |
| 9 あの泥だらけのスニーカーじゃ                             | 28 消えたいくらい辛い <sup>□</sup> 気持ち <sup>□</sup>  |                      |
| 10 追い越せないのは                                  | 29 抱えていても                                   |                      |
| 11 電車でも時間でもなく                                | 30 鏡 <sup>□</sup> の前 笑ってみる                  |                      |
| 12 僕かもしれないけど                                 | 31 まだ平気 <sup>□</sup> みたいだよ                  |                      |
| 13 どんなときも どんなときも                             | 32 どんなときも どんなときも                            |                      |
| 14 僕が僕らしくあるために                               | 33 ビルの間きゅうくつそうに                             |                      |
| 15 「好きなものは好き！」と                              | 34 落ちて行く夕陽に                                 |                      |
| 16 言える <sup>□</sup> 気持ち <sup>□</sup> 抱きしめてたい | 35 焦る <sup>□</sup> 気持ち <sup>□</sup> 溶かして行こう |                      |
| 17 どんなときも どんなときも                             | 36 そしていつか 誰かを愛し                             |                      |
| 18 迷い探し続ける日々が                                | 37 その人を守る強さを                                |                      |
| 19 答えになること 僕は知ってるから                          | 38 自分の力に変えていけるように                           |                      |

図3 「どんなときも。」歌詞（クラスタ批評）

レトリカル批評を用いて検討する「愛は勝つ」の歌詞の多義性  
—「どんなときも。」の歌詞との比較を通して—

る、他者からのみ見える自分の一部分＝無意識の自分を他人が見て、主人公が望む通りの姿で映っているかどうか自信を持ってないことを表現していると思われる。その一方、不安が生じた際の具体的な対応の一つとして、自分自身を正面から映す「鏡」の前で「笑ってみる」ことで「平気みたい」と確認すると語っている。このことから、自分で解決できそうな事柄については、自分から向き合って解決しようと行動していくことが伺える。その際、笑えないような気持ちでも無理に「笑ってみる」ことをし、それで「鏡」に映る自分がぎこちない笑顔だったとしても「平気みたい」と暗示をかけることで、何とか自分自身の前向きな「夢」や「気持ち」を大事にしていきたいという主人公の決意を読み取ることができる。

### 2.3.2 メタファー批評

まず「どんなときも。」の楽曲が制作された経緯と、そのあと主にどのような場面で使用されてきたかを調べた。この楽曲は、作詞者でもある榎原がミュージシャンとしてデビューし上京した後、大学入試の終わった直後に就職活動をテーマにした映画の主題歌を依頼されて作ったものである [11]。主に使用されてきた場面としては、上記で挙げた映画の主題歌、選抜高校野球大会での入場行進曲 [12] などがあり、またこちらも「愛は勝つ」との共通点として先述の通り、全般的な応援歌として捉えられたこともある。これらのことから「大学受験」「就職or進学による上京」「就職活動」「高校野球」「全般的な応援歌」をコンテ

キストに挙げた。

次に「どんなときも。」の歌詞の中で、ある事項を表現するために使われている言葉（ビークル）と、別の言葉によって表現しようとする事項（テナー）を探した。その結果、複数のビークルのみ見出すことができたため、それらを図4で赤色の波線によって表した。

次に「どんなときも。」の歌詞における各コンテキストとビークルの組み合わせによって、どのようなテナーになり得るのかを検討し表4を作成した（マス内は、各コンテキストにビークルを置いた際に読み取れるテナーを表している）。

表4 「どんなときも。」メタファー表

分 析 点	行 目	コンテキスト				
		大学受験	就職or進学による上京	就職活動	高校野球	全般的な応援歌
過 去	旅立つ (5行目)	受験に出発する	上京先に出発する	就活を始める	試合に出発する	目標に挑み始める
	あの夢 (6行目)	希望の大学に合格	就職先or進学先での成功・活躍	希望の企業に内定	試合に勝ちあがっていく	目標を希望通りに叶える
	古ぼけた教室 (7行目)	高校時代or予備校時代の生活	上京する前の生活	就活を始める以前の大学生生活	試合に出発する前の高校生活	目標に挑み始める以前の生活
ビ ー ク ル	泥だらけのスニーカー (9行目)	大学受験を意識していない、自由な学生時代の自分	上京することを意識していない、地元で自由に過ごす自分	社会に出ることを意識していない、学生生活を謳歌する自分	試合に出ることを意識していない、自由な日々を送っていた自分	特に目標を持っていない、自由な日々を送っていた自分
	夢 (23行目)	試験で全力を出しきれること	現在に満足して過ごせること	就活で全力を出しきれること	試合で自分の力を発揮できること	自分が納得できる形で目標を目指すこと
現 在	ピルの間 (33行目)	殺伐とした受験生活	上京先の職場or学校での殺伐とした状況	就活中の殺伐とした状況	試合をする球場もしくは練習場での殺伐とした状況	目標を目指している中の殺伐とした状況
	きゆうくつそうに落ちて行く夕陽 (33-34行目)	試験の手ごたえを感じられず、苦しい気持ちで受験先から帰るけれど、明日も変わらず受験勉強や試験に臨む自分	上京先での生活が順調ではなく、苦しい気持ちで職場or学校から帰るけれど、明日も変わらず受験勉強や試験に臨む自分	就活が上手くいかず、苦しい気持ちでその日の就活を終えて帰るけれど、明日も変わらず就活に励む自分	理想通りのプレーができず苦しい気持ちで、練習や試合から帰るけれど、明日も変わらず懸命にプレーする自分	目標を順調に進められず、苦しい気持ちで今住んでいる家に帰るけれど、明日も変わらず目標を目指していく自分

- |                     |                   |                     |
|---------------------|-------------------|---------------------|
| 1 僕の背中              | 20 もしも他の誰かを       | 39 どんなときも どんなときも    |
| 2 思うより正直かい？         | 21 知らずに傷つけても      | 40 僕が僕らしくあるために      |
| 3 誰かに聞かなきゃ          | 22 絶対ゆずれない        | 41 「好きなものは好き！」と     |
| 4 不安になってしまうよ        | 23 夢が僕にはあるよ       | 42 言える気持ち 抱きしめてたい   |
| 5 旅立つ僕の為に           | 24 “昔は良かったね”と     | 43 どんなときも どんなときも    |
| 6 ちかったあの夢は          | 25 いつも口にしながら      | 44 迷い探し続ける日々が       |
| 7 古ぼけた教室の           | 26 生きて行くのは        | 45 答えになること 僕は知ってるから |
| 8 すみにおきざりのまま        | 27 本当に嫌だから        |                     |
| 9 あの泥だらけのスニーカーじゃ    | 28 消えたいくらい辛い気持ち   |                     |
| 10 追い越せないのは         | 29 抱えていても         |                     |
| 11 電車でも時間でもなく       | 30 鏡の前 笑ってみる      |                     |
| 12 僕かもしれないけど        | 31 まだ平気みたいだよ      |                     |
| 13 どんなときも どんなときも    | 32 どんなときも どんなときも  |                     |
| 14 僕が僕らしくあるために      | 33 ピルの間きゆうくつそうに   |                     |
| 15 「好きなものは好き！」と     | 34 落ちて行く夕陽に       |                     |
| 16 言える気持ち 抱きしめてたい   | 35 焦る気持ち 溶かして行こう  |                     |
| 17 どんなときも どんなときも    | 36 そしていつか 誰かを愛し   |                     |
| 18 迷い探し続ける日々が       | 37 その人を守る強さを      |                     |
| 19 答えになること 僕は知ってるから | 38 自分の力に変えていけるように |                     |

図4 「どんなときも。」歌詞（メタファー批評）

レトリカル批評を用いて検討する「愛は勝つ」の歌詞の多義性  
—「どんなときも。」の歌詞との比較を通して—

表4から見出したことをピークルごとに説明する。

「旅立つ」はコンテキストの当事者にとっての現在と過去を分岐する点に当たり、「(過去の)あの夢」は、第三者から見ても分かる形で、目標に対しての成功や活躍することを指す。「古ぼけた教室」「泥だらけのスニーカー」からは、その当時の主人公があまり周囲の目を意識せず、自由気ままな日々を送っていたと考えられる。

一方、現在の「夢」は、目標を目指すプロセスの中で自分自身に満足や納得をして過ごせることである。また「ビルの間」「きゅうくつそうに落ちて行く夕陽」は、現在の生活が殺伐としていて苦しい中でも、明日も前向きに過ごしていきたいという主人公の気持ちを表している。

### 2.3.3 イデオロギー批評

まず歌詞の全文を一文ごとに区切り、それらを「明示された要素」とみなすリストを作成した。次に「明示された要素」のリストから、それぞれが暗示していると思われる考えまたは概念を「暗示された概念」として挙げた(表5)。

表5 「どんなときも。」歌詞の「明示された要素」と「暗示された概念」

明示された要素	暗示された概念
僕の背中が自分 思うより正直かい?	他者から見た現在の自分に関する疑念の提示
誰かに聞かなくて 不安になってしまうよ	他者から見た現在の自分に関する悲観的な感情の吐露
旅立つ僕の為に ちかっただあの夢は 古ぼけた教室の すみにおきざりのまま	過去の自分の夢についての述懐
あの泥だらけのスニーカーじゃ 追い越せないのは 電車でも時間でもなく 僕かもしれないけど	過去の自分自身についての述懐
どんなときも どんなときも 僕が僕らしくあるために 「好きなものは好き!」と 言える気持ち 抱きしめてたい	現在の自分の気持ちに関する前向きな決意
どんなときも どんなときも 迷い探し続ける 日々が 答えになること 僕は知ってるから	現在の自分の不安定な状況とそこから生じる前向きな展望
もしも他の誰かを 知らずに傷つけても 絶対許すれない 夢が僕にはあるよ	現在の自分の夢の提示
“昔は良かったね”と いつも口にしなげに 生きて行くのは 本当に嫌だから	現在の夢を目指す理由の提示/後悔への嫌悪
消えたいくらい辛い気持ち 抱えていても 鏡の前 笑ってみる	現在の悲観的な感情を解消するための前向きな行動の提示
まだ平気みたいだよ	現在の悲観的な感情を解消するための行動によって安定した感情の提示
どんなときも どんなときも ビルの間きゅうくつそうに 落ちて行く夕陽に 焦る気持ち 溶かして行こう	現在の悲観的な感情を解消するための前向きな行動の提示
そしていつか 誰かを愛し その人を守る強さを 自分の力に変えていけるように	未来の他者との関係に関する前向きな展望

こうして作成した「暗示された概念」のリストには、「前向きな決意」「前向きな展望」「自分の夢」「前向きな行動」「安定した感情」という、一般的に好ましい(=肯定的に捉えられる)と思われる内容と、「自分への疑念」「悲観的な感情」「述懐」「不安定な状況」「後悔への嫌悪」という、一般的に好ましくない(=否定的に捉えられる)と思われる内容が混在している。この点は「愛は勝つ」のイデオロギー批評における「暗示された要素」と同じであるため、カテゴリーも同じく「肯定的or否定的」にした。そして、その中で「暗示された概念」のリストを一つずつグループ分けした(表6)。一般的に好ましいと思われる内容のものは「肯定的」、好ましくないと思われるものは「否定的」、好ましくない内容から好ましい内容へ転じると

思われるものは「否定的→肯定的」のグループに入れた。

そして、その結果から「どんなときも。」の歌詞におけるイデオロギーを検討した。この歌詞の主人公は、現在の不安定な状況の中で、自分自身に疑念を持つことや悲観的な感情になることもあるが、それでも前向きな気持ちで現在の夢を目指していると判断した。そのうえで「心が揺れ動きながらも前向きな気持ちで現在の夢を目指す自己の肯定」というイデオロギーを組み立てた。

そしてこのイデオロギーは、不安を抱えながらも前向きな気持ちで現在の夢を目指そうとしている人にとって利益をもたらす内容(望ましいもの)だと考えた。

表6 「どんなときも。」歌詞の「暗示された概念」の分類

暗示された概念	肯定的or否定的
他者から見た現在の自分に関する疑念の提示	否定的
他者から見た現在の自分に関する悲観的な感情の吐露	否定的
過去の自分の夢についての述懐	否定的
過去の自分自身についての述懐	否定的
現在の自分の気持ちに関する前向きな決意	肯定的
現在の自分の不安定な状況とそこから生じる前向きな展望	否定的→肯定的
現在の自分の夢の提示	肯定的
現在の夢を目指す理由の提示/後悔への嫌悪	否定的
現在の悲観的な感情を解消するための前向きな行動の提示	否定的→肯定的
現在の悲観的な感情を解消するための行動によって安定した感情の提示	否定的→肯定的
現在の悲観的な感情を解消するための前向きな行動の提示	否定的→肯定的
未来の他者との関係に関する前向きな展望	肯定的

## 3. 分析結果

### 3.1 各楽曲の分析のまとめ

#### 3.1.1 「愛は勝つ」

クラスター批評にて歌詞内の言葉の繋がりを分析したところ、「愛」には「切なさ」というマイナスの側面があるものの、様々な葛藤を経て「育つ」ものであり、その最終地点が「勝つ」「勝ちとる」、そしてそこで得られるものが「よろこび」と語られていることが分かった。

またそれを得るために、どんなに「困難」で「くじけそう」でも「信じることを」「やめないで」とも語られている。その例えとして、過去の主人公たちがぼんやりとしか見えない「夜空」の中でも、いつ現れていつ消えるか分からない「流星」を見つけたたびに「願い」を託して乗り越えてきた過去を想起させ、聴き手を奮い立たせる内容であることが分かった。

メタファー批評で歌詞内の、ある事項を表現するために使われていると思われる言葉(ピークル)が実際に指し示していると思われる内容(テナー)をコンテキスト別に検討した結果、当事者における「困難」(現在生じているもしくは未来に生じる可能性のある問題)の中での「夜空」(問題解決の兆しが見当たらず苦しい状況)を打破する糸口に当たる「流星」と、「愛」(当事者が自身の幸せを得られると信じること)によって「勝つ」(苦しみから報われる)ときに当たる「最後」は、たとえ同一コンテキストの

レトリカル批評を用いて検討する「愛は勝つ」の歌詞の多義性  
—「どんなきも。」の歌詞との比較を通して—

中でも具体的な状況が異なると思われ、歌詞の聴き手によってその内容が異なると考えられることが分かった。

そしてイデオロギー批評で歌詞全体を見渡した結果、現時点で苦しい状況にいて、悲観的になっている人にとって利益をもたらす内容（望ましいもの）だと考えた。

### 3.1.2 「どんなきも。」

クラスター批評にて歌詞内の言葉の繋がりを分析したところ、歌詞の主人公の「夢」について、過去と現在で明確な違いがあることが分かった。過去の「夢」は「おきざり」としか語っていないが、現在の「夢」は「ゆずれない」と語り、しかもその内容は（「好きなものは好き！」と）「言える」「気持ち」を「抱きしめてたい」ことだと具体的に語っている。また「辛い」「焦る」などのネガティブな「気持ち」は「抱えていても」、「笑ってみる」などの行為で「溶かして行こう」と具体的な対応策を語っている。

また、「背中」と「鏡」という対照的な言葉を検討したところ、主人公は自分の「背中」が他者から見て「正直」に見えるか「不安」だと述べる一方、その「不安」が生じた際の具体的な対応の一つとして自身を正面から映す「鏡」の前で「笑ってみる」ことで「まだ平気みたい」と確認すると語っている。

これらのことから、現在の主人公が他者から見た自分に自信が持てなくともポジティブな気持ちで夢を目指そうとしていて、問題が生じた際は具体的な行動で解決しようとする事が分かった。

メタファー批評で歌詞内の、ある事項を表現するために使われていると思われる言葉（ビークル）が実際に指し示していると思われる内容（テナー）をコンテキスト別に検討した結果、主人公の「夢」についての過去と現在の違いが更に詳細に分かった。主人公の過去の「(あの)夢」は対外的な形での成功や活躍を果たすことだったが、現在の「夢」は、自分が納得できる形で目標に向かっていくことである。また主人公の過去と現在の生活についての違いも明らかになった。過去の生活を表す「古ぼけた教室」「泥だらけのスニーカー」からは、当時の主人公が自由気ままな日々を送っていたと推測でき、現在の生活を表す「ビルの間」「きゅうくつそうに落ちて行く夕陽」からは、殺伐とした状況の中で苦しさを抱えながらも明日も前向きに過ごしていこうとしている姿が伺えた。

そしてイデオロギー批評で歌詞全体を見渡した結果、不安を抱えながらも前向きな気持ちで現在の夢を目指している人にとって利益をもたらす内容（望ましいもの）だと考えた。

## 3.2 考察

本稿では、一つの楽曲の歌詞がなぜ様々な場面かつ様々な意味で捉えることができるのか、「愛は勝つ」の歌詞と同時期にヒットした「どんなきも。」の歌詞を比較して分析した。

その結果、より多くの場面で当てはまると思われるのは

「どんなきも。」の歌詞であると考えた。なぜなら、この歌詞は自分自身の「夢」を目指す主人公の心の揺れ動きと変化の過程を語る内容であり、大小問わず様々な状況で、不安に駆られながらも自分自身の「夢」を目指している人々に響くのではないかとと思われるからである。

一方「愛は勝つ」の歌詞は「困難」で「くじけそう」になっている人に対し、いつか「誰か」に「想い」が「とどく」という未来の結果を提示する内容である。解決のために他者の介在が必要となるほどの「困難」が生じる場面は、個人の内面で葛藤が起きる場面に比べると限られてしまうのではないかとと思われる。

だが、一つの場面の中でも聴き手によって様々な意味で解釈できるのは「愛は勝つ」の歌詞だと考えた。「どんなきも。」の歌詞は、どの場面で使われるとしても一貫して「前向きな気持ちで夢を目指したい」という意味に集約できると思われる。だが「愛は勝つ」の歌詞をメタファー批評で分析した際、「困難」を打破する糸口に当たる「流星」と、幸せを得られるときを示す「最後」については、同一コンテキストの中でも具体的な状況が異なると考えた。その点から、本稿の冒頭で述べた事例のように片思いを諦めるよう勧める内容としても、それとは全く逆に、相手への想いを抱き続けることを勧める内容としても受け取ることができると思われる。

とはいえ「愛は勝つ」の歌詞は、終始一貫して「誰か」に「想い」が「とどく」ことを「信じることを」勧める内容である。自分一人では解決が難しい「困難」に直面し苦しんでいる人たちに「逆境は乗り越えられる」と繰り返し伝え、必ず最後に希望ある結末が待っていると提示する。

このような歌詞のメッセージは、本稿の冒頭で述べた通り「自然災害」や「感染症の蔓延」などの、未曾有の社会不安が生じ、問題解決のために個人ができることも限られた深刻な状況下で特に力強く響く可能性がある。シンプルかつストレートに希望を示し励ます歌詞が、先が見えない状況に苦しむ人々の心に響きやすいのではないかとと思われる。

## 3.3 今後の課題

本稿では二曲に絞って歌詞の分析を試み、敢えて質的な研究手法の一つであるレトリカル批評を用いて検討した。一方、時代ごとの流行歌や、一組のアーティストが発表してきた楽曲すべての歌詞を研究する場合であれば、調査対象となる楽曲も多数あると思われ、量的なアプローチを取れば本稿と異なる面が明らかになると思われる。

歌詞分析に関する研究は、手法も多彩にあると思われるが、対象にできる楽曲はおそらく無数にあり、今後も増えていくばかりだろう。これからも様々な歌詞の研究が、様々な視点から為されていくことに期待したい。

## 謝辞

まず筆者に「レトリカル批評」という研究手法を教えて



くださり、終始熱心にご指導くださった大橋理枝先生に深く感謝申し上げます。また、副査を務めてくださった他、合同ゼミなどで親身になってアドバイスをくださった滝浦真人先生、合同ゼミでご助言や励ましの言葉をくださった宮本徹先生にも深く感謝申し上げます。

また大橋ゼミや合同ゼミにて筆者の研究発表を温かく見守ってくださった同期や先輩・後輩の方々、そして筆者の研究を大学外から応援してくださったKANさんのファンの方々にも併せて感謝申し上げます。

## 文 献

- [1] 森田恭子編・執筆（2020）『KAN in the book 他力本願独立独歩33年の軌跡』シンコーミュージックエンタテイメント, 19-20
- [2] MUSIC FAIR（フジテレビ）2019年6月1日放送「ウェディングソング特集」  
<https://www.fujitv.co.jp/MUSICFAIR/backnumber/bn1906.html>（2021年12月2日参照）
- [3] 神戸新聞NEXT「各地で追悼式 鎮魂のトランペットは今年で最後」  
<https://www.kobe-np.co.jp/rentoku/sinsai/24/201901/0011986898.shtml>（2021年11月17日参照）
- [4] HELLO! PROJECT「『がんばろうニッポン 愛は勝つ』プロジェクト」  
<http://www.helloproject.com/news/1432/>（2021年11月17日参照）
- [5] アップフロントチャンネルアップフロントグループ「テレワーク合唱『愛は勝つ』『泣いていいよ』『負けないで』」  
<https://www.youtube.com/watch?v=8xDGXCVCptg>（2021年11月17日参照）
- [6] Foss, Sonja K. (2009). *Rhetorical criticism : Exploration and practice* (4th edition). Long Grove, IL : Waveland Press.
- [7] <http://karaoke.or.jp/ivent/ouenka/>（2022年11月7日参照）
- [8] <https://nendairyuukou.com/article/151.html>（2022年11月9日参照）
- [9] 茅根滋（2002）「経済的観点から見る日米のヒット曲の歌詞構造とその法則性」『金沢大学経済学会 学生論集』（21）, 83-96
- [10] 金城克哉（2013）「榎原敬之の歌詞の数量的分析：『君が笑うとき君の胸が痛まないように』から『Heart to Heart』まで」『琉球大学欧米文化論集』（57）, 23-42
- [11] 松野ひと実（2004）『榎原敬之の本。』幻冬舎, 52-70
- [12] 毎日新聞「入場行進曲一覧 | 選抜高校野球」  
<https://mainichi.jp/koshien/senbatsu/data/march/>（2021年12月2日参照）